

システム監査学会

第29回公開シンポジウム  
(2016年10月28日 (金) 開催)



統一論題

# つながる社会とシステム監査

於：機械振興会館 ホール JSSA

【開催趣旨】

今日、デジタル・ディスラプション（破壊的創造）の時代と言われ社会・経済が大きく変わろうとしています。

特に、インターネットは情報のみからモノ、ヒトへ拡大し、ビッグデータ（BD）、AI と連携し新たなビジネスモデルを創造・創出することが求められています。

そこで、この IoT/IoE 時代に、システム監査はどうあるべきかを会員、専門家、関係者と真摯に議論をし、ご批判とご意見をいただければ幸いです。

本学会会員ならびにシステム監査、情報セキュリティ、情報ソリューション、リスクマネジメント、BCP/BCMS 等に携わっている関係各方面の方々のご参加をお待ちしております。

【プログラム】

司会 大会実行委員長 黒澤 兵夫

10:00 -10:10	開会挨拶	システム監査学会 会長 遠山 暁
10:10 -10:25	挨拶	経済産業省 商務情報政策局サイバーセキュリティ課長 師田 晃彦 氏
10:25 -11:20	<b>基調講演 「IT を利用した監査の展望～未来の監査へのアプローチ～」</b> 日本公認会計士協会 IT 委員会から 2016 年 3 月 28 日に、IT 委員会研究報告第 48 号「IT を利用した監査の展望～未来の監査へのアプローチ～」を公表した。 この研究報告は、国内外における IT を利用した監査のアプローチの動向について検討を行うとともに、将来的に IT が全面的に利用されている企業環境において、精査的な手法および統計学的アプローチに比重を置いた監査のアプローチが確立される可能性について、現状における展望の取りまとめを行っている。また、未来の監査の事例として、IT の普及により大量のデータを取り扱うことが可能となった 2025 年頃の社会を想定し、その時代に即した監査のアプローチを例示している。日本公認会計士協会において IT 担当常務理事として係わったことから、この研究報告を中心にお話する。 中村公認会計士事務所 公認会計士 中村 元彦 氏	
11:20 -12:10	<b>講演 1 「サイバーセキュリティ対策と監査」</b> 日本年金機構の情報流出事案を受けて、機構を監督する厚生労働省の組織的・人的・技術的な対策および業務運営上の対策と問題点の認識と再発防止策における取組を話す。 また、サイバーセキュリティ基本法改正による NISC の監査および省内情報セキュリティ監査の概要も触れる。 厚生労働省 政策統括官付 サイバーセキュリティ担当参事官室 統括サイバーセキュリティ対策官 最高情報セキュリティアドバイザー 印藤 晃 氏	
12:10 -13:05	昼休み (55 分)	
13:05 -13:35	<b>研究発表セッション 1 「ブロックチェーン技術とシステム監査」</b> ビットコインを始めとする仮想通貨における分散型台帳技術として開発されたブロックチェーン技術を、FinTec と呼ばれる新しい金融サービス等で活用しようとする動きが進んでいる。将来は金融サービス以外の一般のビジネスでもブロックチェーン技術が活用されるようになる可能性も高い。 このようにブロックチェーン技術のビジネスでの活用が進めば、当然、システム監査での配慮も必要になると考えられる。 そこで、現時点でのブロックチェーン技術の動向とその問題点を整理し、システム監査人の視点からその信頼性・安全性確保のための留意点を考察し、監査ポイントとして提案する。 京都聖母女学院短期大学 荒牧 裕一 氏	

13:35 -14:05	<p><b>研究発表セッション 2 「繋がるシステムの内部統制とシステム監査についての一考察」</b></p> <p>あらゆるモノインターネット等のネットワークに接続され、そこから得られる多様なデータを収集・分析・活用したり、システムの自動制御に用いたり、API 等によりシステム機能そのものを共有すること等により、新たなサービスが開発されるようになった。これらを支える情報システムでは、システム機能や取り扱う情報が組織を越えて相互に関連し合うため、関係者それぞれが高かつ持続的な品質と安全を確保し、相互に信頼できるような枠組みを作っていくことが重要になる。</p> <p>繋がるシステムをサイバー犯罪やサイバー攻撃から防衛し、自動化されたサービスのセキュリティとセーフティを確保し、収集した情報の活用におけるプライバシーを保護し、関係者間の相互信頼を実現するため、どのような内部統制が求められるか、システム監査はどのように貢献すべきかを考察する。</p> <p style="text-align: right;">システム監査技術者、CIA,CISA 成田 和弘 氏</p>
14:05 -14:35	<p><b>研究発表セッション 3 「金融機関等のシステム監査指針」における IT ガバナンスとの関連性</b> ～テキストマイニングによる分析の試み～</p> <p>金融庁は IT ガバナンスをシステム投資・システム運用を適正に統制し、組織的に取り組むためのマネジメント態勢と定義し、IT 統括部門による統括機能の発揮を重視している。</p> <p>IT 統括機能を ISO/IEC 38500 の EDM モデルに相当するものと仮定すると、IT ガバナンスの監査では、EDM モデルに該当する機能が存在することを検証する必要がある。そのため、金融機関がシステム監査を行う際に参考にする「金融機関等のシステム監査指針」(以降、FISC 指針と記載)にテキストマイニングを適用し、EDM モデルとの関連性が高い単語とその分布を分析した。</p> <p>分析結果から、FISC 指針において EDM モデルとの関連性の高い単語の分布は要点項目によって差異があることが明らかになった。この点を踏まえ、金融機関が FISC 指針に基づいて IT ガバナンス監査を実施する際は、EDM モデルを参考にチェックポイントを補うことを提言する。</p> <p style="text-align: right;">三井住友銀行 神橋 基博 氏</p>
14:35 -14:45	休憩 (10 分間)
14:45 -15:35	<p><b>講演 2 「IoT 開発におけるセキュリティ設計」</b></p> <p>家電、自動車、玩具、産業機器など多種多様な「モノ」がネットワークを介してつながる IoT が注目を集めているが、つながることで発生する脅威に対するセキュリティ対策の不十分さや責任分界の曖昧さなど様々な課題がある。</p> <p>IPA (情報処理推進機構) は、IoT 開発においてセキュリティ設計を担当する開発者に向けた手引きを作成・公開し、いくつかの例題をもとに IoT システムにおける脅威分析と対策検討の実施例を示した。本講演では手引きを題材として、IoT のセキュリティ、脅威と対策等について解説する。</p> <p style="text-align: right;">情報処理推進機構 技術本部セキュリティセンター 情報セキュリティ技術ラボラトリー 辻 宏郷 氏</p>
15:35 -16:25	<p><b>講演 3 「IoT 社会における法的責任論についての考察」</b></p> <p>IoT 社会は、超人的社会 (a superhuman society) である。超人的センサーにより収集した情報を、超人的ビッグデータに蓄積し、超人的 ICT により利活用し、社会の利便性・生産性・効率性が劇的に向上し、高齢化社会における労働力の不足などの問題を解消する可能性がある。しかし、そのような社会においては、自由な意思決定による尊厳ある人間存在を根底に組み立てられている現在の法的責任論の意思的契機が著しく減少し、それによって法的責任の根拠や範囲や内容も変化せざるを得ない。収集・利活用の場面においても新たな規範的責任が必要となる。</p> <p style="text-align: right;">弁護士法人エルティ総合法律事務所 所長 IT-ADR センター所長 弁護士/システム監査技術者 藤谷 護人 氏</p>
16:25 -16:30	<p>閉会挨拶</p> <p style="text-align: right;">大会実行委員会委員長 黒澤 兵夫</p>

都合により、講演内容に変更が生じる場合がありますが、ご了承ください

【開催日時】 2016 年 10 月 28 日 (金) 10:00～16:30

【開催場所】 機械振興会館ホール (東京都港区芝公園 3-5-8 地下 2 階)

<http://www.jspmi.or.jp/kaigishitsu/access.html>

【定員】 200 名

【参加費】 会員 5,000 円 (注) 非会員 8,000 円

注 1) 会員とは、システム監査学会の正/学生/賛助会員および、後援団体の会員をいいます。

注 2) 会員の当日申込みは 6,000 円となります。

【参加申込】 学会ホームページからお申し込みください。

[http://www.sysaudit.gr.jp/sympo/29\\_symposium.html](http://www.sysaudit.gr.jp/sympo/29_symposium.html)

【参加費納入】納入期限：10月25日（火）午前中までにお振り込みください。当日現金でのお支払いも可能です。

- みずほ銀行 神谷町支店（146） 普通／1140541 口座名：システム監査学会
  - 郵便振替 00120-1-254839 口座名：システム監査学会
  - ゆうちょ銀行（他の金融機関から振り込む場合）  
店名： 〇一九店（ゼロイチキユウ店）／店番-019  
口座番号：当座預金 0254839 口座名：システム監査学会
- ★いずれも振込手数料はご負担ください。

- ・請求書をご希望の場合は申込フォームの請求書欄をチェックしてください。申込受付後、請求書を発行します。
- ・参加費納入後にキャンセルされた場合の返金はできませんので、ご了承ください。  
(納入して欠席された場合は、後日配布資料を送付します。)

【資格継続ポイントについて】 大会終了後、受講証明書を発行しますので、ご希望の方は申込時に「受講証発行」欄の「要」を選択してください。

- 専門監査人の業績ポイントは10ポイント（複数区分の資格を取得している場合は1区分のみ対象）
  - ITコーディネータ実践力ポイント付与対象セミナー（付与ポイントは5時間30分（4時間1ポイント相当、上限なし）
  - その他の団体の資格継続ポイントについては、所属する団体にご確認ください。
- \* 団体指定で受講証明書の様式がある場合は、当日、受付にご提出ください。

【主催・問合先】 システム監査学会 （事務局）〒106-0032 東京都港区六本木 1-9-9 JIPDEC 内  
TEL：03-5860-7556／URL：http://www.sysaudit.gr.jp/

【後援団体】 一般財団法人日本情報経済社会推進協会（JIPDEC）、NPO 法人日本システム監査人協会（一部予定）（SAAJ）、ISACA 東京支部・名古屋支部・大阪支部・福岡支部、NPO 法人日本セキュリティ監査協会（JASA）、日本 IT ガバナンス協会（ITGI）、日本セキュリティ・マネジメント学会（JSSM）、一般社団法人経営情報学会（JASMIN）、一般社団法人情報処理学会（IPSJ）、公益社団法人日本技術士会（IPEJ）、一般財団法人日本データ通信協会（JADAC）、日本公認会計士協会（JICPA）、日本情報経営学会（JSIM）、一般社団法人日本内部監査協会、ITコーディネータ協会（ITCA）

#### 【大会実行委員会】

委員長	黒澤 兵夫	（T A K E 国際技術士研究所）		
委員	石島 隆	（法政大学）	内桶 孝雄	（マネージメントサービス）
	佐藤 修	（東京経済大学）	清水 恵子	（公認会計士）
	成田 和弘	（システム監査技術者、CIA、CISA）	原田 要之助	（情報セキュリティ大学院大学）
	船津 宏	（オフィス船津）	堀江 正之	（日本大学）
	本田 実	（城西国際大学）	松田 貴典	（大阪成蹊大学）
	山本 孟	（MHO アストラボ）	吉田 洋	（名古屋文理大学）